

学校名：広島県立加計高等学校授業者：明石 空教材作成者：明石 空

授業日時	令和 8 年 9 月 18 日 (金) 4 限	教科・科目	論理国語
学年・年次	2 学年	児童生徒数	19 名
単元名	バラと通貨はどう違う？	本時／この内容を扱う全時数	5/7
教科書及び教科書会社	『高等学校標準論理国語』（第一学習社）		

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

本時の授業を通して、通貨が通貨であることを、実際に自分たちは何をもって認知しているのかを多角的に考えることで、筆者の言う「通貨の基本は認知であり、認識である」という主張をより高解像度のものとして、実感を伴った理解をさせる。そしてその理解が深まることにより、我々がとある物体や、場合によっては固有の形を持たないものを「通貨である」と認知するとき、そこにはどのような思考があるのかについて、考えを巡らせさせる。

この単元において、抽象的な概念に対してであっても自分の考えを持とうとする経験や、考えを持つにあたって思い当たらないとき、思考実験的に、関連する様々なケースを想像し、その共通項から自分が考えていることの輪郭を浮かび上がらせるという経験を積ませたい。そのことが「論理国語」の目標である、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにすることの一助となるようこの授業を設計した。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

あるものを通貨と認知するとき、どのような条件が必要だと言えるか。

児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

生徒は、今年度に入ってから、植物学、言語学に関する評論を読みながら、人間の生き方や自身の日本語感覚、言葉に対する姿勢について思考を広めるよう日々の授業で学んできた。各単元において最終的にはこのような抽象的な内容にも取り組んでは来ているが、まだ自分の考えを持つことが難しい生徒もいる。通貨における「認知」という概念的なものを、身近な事例から考えを巡らせることができるかが課題である。

○プレ課題…教科書本文の内容から、「信頼できる他者が発行しているもの」は出てくるかもしれないが、その他は思い付きの量より、個々人で差が出ると思われる。

○エキスパート課題…各課題の難易度はさほど高くないと予想している。A 課題で、それなりに形を持っていることが条件だと生徒が結論づけた場合、ネット通貨は当てはまらないと困惑するか。ネット通貨も画面等確認できるものがある上、その他の条件をクリアしているので利用されているが、たしかに現実さの面で現金に一部敵わない側面がある、というような考察をするのは難しいか。

○ジグソー課題…エキスパート課題の解答を持ち寄ることができれば、認知するときどのような

ことを判断しているのかは多角的にみることができると思われる。ただ、条件の羅列のみならず、それぞれの条件の関連付けを生徒ができるかには不安が残る。
期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）
（１）通貨になるものには、有形の場合、流通するに十分な数がありながらも、それなりに重量や価値のあるものであるという条件がある。その価値の場合、希少価値、美的価値、利用価値など、複数の方向性がある。現代でも、キャッシュレス化が進む中、物理的に形を持つ硬貨は、災害時や通信障害の影響を受けない安心感からまだ存在している。 （２）通貨になるものには、そのものの有形・無形を問わず、発行元の信用も必要である。運営する団体が安定していて、用いるにあたり自分に不利益が生じるリスクがなさそうかが、通貨が通貨として認知されるために重要になる。 （３）通貨になるものには、偽物が横行しないという特徴が必要である。例えば日本の紙幣・硬貨であれば、デザインに細かい線や点を用いたり、見る角度や光の当たる向きによって肖像や文字が浮かび上がるよう特殊なデザインにしたりし、偽造を防いでいる。偽物が流通するような状況では、その紙幣の信用がなくなるうえ、通貨の発行量が操作できなくなってしまう。
各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞
A：今までに用いられた商品貨幣の例や、教科書本文で出てきた「瓦礫は良くて紙は駄目」の例を用いて、貨幣や通貨の役割を果たしてきたものの特徴を考える。ジグソー活動では、現代でも、有形のものの場合、交換が容易でありながら、それなりの価値と重量があるものが使われている硬貨が現代でも使われていることに触れてほしい。 B：ネット通貨の代表として Paypayをあげ、利用するにあたり発生するリスクと、それがあっても広く用いられている理由から、通貨の認知に必要な条件を考えさせる。倒産や解散、その他想定外の事態で利用不可能になる可能性も0ではないが、その可能性は限りなく低いもので、利用しても損失が出る可能性はほとんどないと、利用者から信頼されていることが、通貨として用いられるための条件であると気づいてほしい。 C：一万円札に施されている工夫の多様さから、現行の紙幣には多数の偽造対策がなされていることを知り、そもそも偽造ができるとどんな問題が生じるのかを考える。ジグソー活動では、偽造ができるとその通貨の信用を揺らがしたり、不用意に流通量が増え悪影響を与えたりするので、容易に偽造できないものである必要があることに気づいてほしい。
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
身近な例や財務省資料を紹介し、具体例に対する考えから徐々に抽象事項への意見形成をさせ、筆者の最終的な主張である「通貨の基本は認知であり、認識である」を再理解する。そして、「自分は、どのお金を使っていきたいか。また、それはなぜか。」を考えさせ、今回の単元での学びを自分事として引き寄せ、実生活とのかかわりを意識させる。今回の経験を積んだ上で、次単元である「自己と社会」に進み、内容読解の段階から、本文内容をより自分事に引き寄せさせ、精度の高い読解をさせたい。その読解をもって、今回よりもさらに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする姿勢を涵養したい。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	・『バラと通貨はどう違う?』浜矩子 本文読解	・学問分野の理解 ・本文の内容を的確に読み取る。 ・荻原重秀の改鑄の例、政府紙幣の例が、通貨の基本とどう関係しているのかを読み取る。
前時	本文の主張まとめ プレ課題	・本文全体を踏まえて、筆者の言う「通貨の基本は『人本位制』である」に対する意見の例を見て、その意見を持つ人がどういう理由からそのように述べているのかを考える。 ・プレ課題を考える(個人)
本時	・エキスパート活動 ・ジグソー活動 ・クロストーク ・ポスト課題	・エキスパート課題を考える(グループ) ・エキスパート活動で得た知識をもとに、内容を関連付けてジグソー課題を考える。(グループ) ・他の班の考えを聞き、その上での最終的な自分の考えを簡単に記述する。
次時	ポスト課題で出た意見紹介。 「貨幣による共同体」の紹介と、共同体の定義確認	・通貨として認知されるものの条件を振り返る。 ・共同体という言葉のイメージと意味を確認する。
この後	次單元である、自己と社会「共同体の幻想」読解	・共同体で発生しやすい現象やその具体例を考える。

上記の一連の学習で目指すゴール
読んだ文章で扱われている内容に対して、自己とのつながりを積極的に見出そうとする力や、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする姿勢を涵養したい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	・本時の学習の流れを知る。	・前時の内容の確認、本時の流れを説明し、学習の目的を明確にする。
15分	・エキスパートA・B・Cの各課題に分かれ、資料や例をもとに考察する。 A:「過去・現在の貨幣や「瓦礫は良くても紙は駄目」という例から、通貨として認められるものにはどのような特徴があるか。また、そこから見える通貨の認知に必要な条件は何か。教科書と資料を参照して考えよう。」 B:「PayPay、morica、政府紙幣などの例について、どのような状況だったら通貨として使うのがためられるか。また、そこから見える、通貨の認知に必要な条件は何か。教科書と資料を参照して答えよう。」 C:「一万円札には資料のような偽造防止工夫が凝らされているが、なぜ偽造防止の必要があるのか。また、そこから見える通貨の認知に必要な条件は何か。」	・各グループで、通貨として認知される条件を、担当の視点から整理させる。
15分	・エキスパート班で得た知識を持ち寄り、ジグソー課題「あるものを通貨として認知するときには、どのような条件が必要だと言えるか」について話し合う。 ・班での考えを整理しホワイトボードに記入する。	・条件の列挙で終わらないよう、共通点や条件間の関係性を意識させる。 ・発表者はクロストークで、ホワイトボードをもとに班の意見を発表することを意識させておく。
10分	・クロストークを行う。 1班と2班、3班と4班、5班と6班は班単位でペアになる。各ジグソー班のA課題の生徒は班での結論を発表する。一班発表終了ごとに補足や質問を行う。 クラス全体で共有する。	・各班のホワイトボードを見ながら、通貨の認知に必要な条件に関連しそうな語を確認する。 ・1組の班ペアを指名し、自分たちの班ペアのそれぞれの結論と、共通点・相違点をクラス内で共有する。指名する班の数は時間による。
5分	ポスト課題 (1) あるものを通貨と認知するとき、どのような条件が必要だと言えるか。 (2) 自分は、今後どのお金を使いたい。また、それはなぜか。 を記入する。	・これを課題とし、シルバーウィーク明けに提出するよう指示する。

グループの人数や組み方

エキスパート班は A・B・C の 3 課題に分けて考察し、ジグソー班は異なる課題を担当した生徒同士で 3～4 名編成とする。ジグソー法により慣れている地元中学出身者を極力バランスよくグループに入れるよう工夫する。各班で互いの考えを交流し、通貨として認知される条件を多面的に整理できるようにする。

バラと通貨はどう違う？① 年 月 日

A 班ワークシート 年 組 番 名前（ ）

A 班 過去・現在の貨幣や「瓦礫は良くても紙は駄目」という例から、通貨として認められるものにはどのような特徴があるか。また、そこから見える**通貨の認知に必要な条件**は何か。教科書と資料を参照して考えよう。

資料

① 古代中国の貨幣

昔、人々は物々交換で必要なものを手に入れていた。
その後、米・布・塩・貝などが物品貨幣として使われた。
さらに技術が発達すると、青銅貨がつくられ、秦の時代には円形角穴の貨幣が広く使われた。
物々交換 → 物品貨幣（米・布・塩・貝） → 青銅貨 → 円形角穴貨幣

② 日本の貨幣（11～12 世紀）

10 世紀末に銭貨の流通が弱まると、米・絹・布が貨幣の代わりに使われた。
これらは値段の基準としても役割を果たした。
ただし、持ち運びが不便だったため、しだいに信用取引が広まった。
中央の役所が支払いを命じる書類を出し、それが小切手に近い役割を果たした。
銭貨の流通停止 → 米・絹・布が代用 → 持ち運びの不便さ → 信用取引 → 書類による支払い

③ 日本の貨幣（現代）

【図表3】日常生活の支払いに現金を利用する理由(複数回答)

資料：日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」(第101回<2025年3月調査>)よりニッセイ基礎研究所作成

その場で支払いが完了する	41.8
多くの場所で利用できる	40.9
使い過ぎる心配が少ない	36.9
支払いが簡単	22.0
手数料などがかからない	20.2
信頼性が高い	16.0
匿名性が高い	9.0
その他	18.8



↑ 図 1

一、班としての考えをまとめよう（一分以内で説明できる長さにする事）。

年 月 日

年 組 番 名前 ()

資料

L&G 事件は、健康寝具販売などを手がける L&G が、高配当をうたい会員から多額の出資金を集め、独自の電子マネー「円天」も使って勧誘を広げた詐欺事件である。実際には新規会員の出資金を配当に回す自転車操業で、資金繰りが破綻すると配当や解約も滞り、多くの被害者が出た。結果として「円天」は通貨のように使えなくなった。

出来事	何が起ったか	人々の認識はどう変わったか
高い配当の宣伝	最初は「もうかる」と感じて人が集まった。	この時点では通貨ではなく、「得をする手段」と見られた。
円天の発行	会員が現金を出すと円天が配られた。	目に見えないが、使えそうなものとして受け止められた。
勧誘が増える	友人や家族にも広がった。	「みんなが信じているなら大丈夫かも」という認識が広がった。
配当停止・解約困難	使えない、戻せない不安が広がった。	「安心して使えるものではない」と疑われ始めた。
信用の崩れ	疑われるようになると、受け取る人が減った。	通貨のように使えるという認識が失われた。

京都府のスーパー「ツジトミ」は、2021 年から独自の電子マネーカードを導入していたが、10 月に突然閉店し、11 月下旬に破産申請した。利用者の中には残高が戻らず戸惑う人もおり、未使用残高は約 360 万円にのぼった。資金決済法は一定規模以上の電子マネーに利用者保護のための供託を求めるが、今回は対象外だった。

年 月 日

年 組 番 名前 ()

資料

技術	どんな見え方か	ねらい
高精細すき入れ 	肖像のまわりに、細かい連続模様が見える。	まねしにくくし、本物だと確かめやすくする。
3D ホログラム 	傾けると、肖像が回転して見える。	最新技術で偽造を難しくする。

- ・自分が目にするお札が今より高確率で偽物だったらどういう影響があるか。
- ・自分が受け取ったお札が偽物だったと判明したとき、損をするのは誰か。
- ・各自が自分で偽造して一万円札を増やし、それを使うことで市場に流れる（既存の本物+大量の偽札）とどうなるか…

This image shows a completely blank white rectangular area enclosed within a thin black border. There are no markings, text, or illustrations present.

バラと通貨はどう違う？④

年 月 日

ジグソー活動シート

年 組 番 名前（ ）

一、各観点からの報告をまとめよう。A、B、Cの順に説明を聞き記入してください。

A 「過去・現在の貨幣や「瓦礫は良くても紙は駄目」という例から見える、通貨の認知に必要な条件」についての意見

B 「Paypay、morica、政府紙幣を使うのがためられる状況から見える、通貨の認知に必要な条件」についての意見

C 「一万円札の偽造防止工夫と、偽造がいけない理由から見える、通貨の認知に必要な条件」についての意見

二、あるものを通貨と認知するとき、どのような条件が必要だと言えるか、班としての意見をまとめ、ホワイトボードに書いてみよう。

★①各課題から見える条件はもちろん、②各条件同士にどのように関係があるかも考えてみよう。

②例：〇〇の条件と〇〇の条件（or すべての条件）は～～という点では共通している。通貨になるものには～～が重要だと考える。

バラと通貨はどう違う？⑤

年 月 日

個人シート

年 組 番 名前（ ）

ー まず書いてみよう。（話し合い活動前）

（１）、あるものを通貨と認知するとき、どのような条件が必要だと言えるか。

（２）自分は、今後どのお金を使いたい。また、それはなぜか。

二、活動を経て考えたことを生かしながら、書いてみよう。（話し合い活動後）

（１）、あるものを通貨と認知するとき、どのような条件が必要だと言えるか。

（２）自分は、今後どのお金を使いたい。また、それはなぜか。

授業研究のための見とりの観点シート（記入例）

本時特に育成したい資質・能力	この授業の中で期待する資質・能力の発揮のされ方 【主な場面】	資質・能力が発揮された姿の具体例（発言など）
論理的、批判的に考える力	各班の複数の資料を関連付け、通貨の認知に必要な条件にどのようなものがあるか考えることができている。【エキスパート】	・ 古代中国の貨幣と日本の 11～12 世紀ごろの貨幣の共通項を見出している。 「どちらも米とか布とか、誰しものが必要とするものが通貨になっていったんだね」 ・ L&G 事件とスーパーツジトミの突然閉店から、発行元の信頼や安定性に着目している。 「発行元の経営が怪しいと、破産前でも通貨は使われなくなるし、閉店を予想していなければ本当は経営が怪しくても通貨は普通に使われるんだね。」 「発行元が信用できるかが条件に関係しそうだね。」 ・ 新一万円札の偽造防止技術と、実際に偽造が起こった場合の想定を組み合わせ、偽造しにくさがいかに通貨の信用や利用できる状況を守っているかに気づく。 「偽造が当たり前になると通貨って使えなくなるね。」
創造的に考える力	各班からの条件をまとめ、各観点のつながりを意識する。	・ A、B、C 課題から見えた条件同士に共通性や関連性を見出している。 「各班の条件って、信用という意味では共通しているね。」 「持ち運びができるという意味でも、みんなが使っている安心感という意味でも、きちんと通貨として機能しているという意味でも、『不都合なくちゃんと使える』って大事だね。」
他者との関わりの中で伝えあう力	ほかの班員の意見を聞き、分からないことを質問したり他者の考えを用いて考えを深めたりしている。【ジグソー・クロストーク】	・ 他者の意見をよく聞いている。 ・ 他者の質問に対して、資料や教科書など、根拠をもって説明している。 「〇〇さんが言ったのは、こういうことだよね」 ・ 他者が気づいたことを班員複数人で確かめたり、複数の場合について班員で一緒に考えたりしている。 ・ 他者の考えと自身の考えの共通点や相違点を考え、補強や再反論の材料にするなど、自分の考えの反映させている。